

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	令和4年度第1回武蔵村山市地域公共交通会議
開 催 日 時	令和4年12月22日(木)午後2時から午後3時30分まで
開 催 場 所	さくらホール会議室1・2
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：藤井会長、沖野副会長、小林委員、高橋委員、原田委員、長堀委員、飛田委員、佐藤委員、江郷委員、米澤委員、土岐委員、大重委員、石川委員 代理出席者：田中氏(清家委員代理)、尾崎氏(若田委員代理) 欠席者：板倉委員、秦野委員、吉永委員 事務局：樋渡都市整備部長、木村交通企画・モノレール推進課長、竹澤交通企画・モノレール推進係長、同係長濱主事
報 告 事 項	1 市内循環バス(MMシャトル)の利用実績について (1) 平成25年度以降の利用実績 (2) 令和4年度(4月～10月)の利用実績 2 乗合タクシー(むらタク)の利用実績について (1) 令和3年度の利用実績 (2) 令和4年度(4月～10月)の利用実績 3 乗合タクシー(むらタク)登録者アンケート結果について 4 乗合タクシー令和4年度利用促進策について 5 バス路線再編に関する基本方針策定について
議 題	1 乗合タクシーの同乗者利用の本格運行について 2 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題1について 乗合タクシーの同乗者利用について、規定整備を行い、令和5年4月から本格運行を行うことが承認された。 議題2について 特になし
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) ◎：会長 ○：委員 ●：事務局	報告事項1 市内循環バス(MMシャトル)の利用実績について 【事務局説明】 ● 資料1に基づき説明<説明省略> 【主な意見、質疑等】 ○ 運賃収入について、予算額と比較してどのような状況であるか。 ● 実績は予算額を満たしていない。 市から立川バス株式会社に意見を仰ぐ ○ (立川バス株式会社)足りない部分については、市の補助金で補填している。利用者数の増加が補助金の削減に繋がるため、利用促進に努めたい。 ○ 不足分はいくらか。 ● 令和2年度決算額は、1億5,861万3,500円であり、補助金は1億3,500万円である。その差額は運行事業者が負

担している。

- 補助金の金額は、例年同額になるのか。
- 昨年度まで1億1,000万円を市の補助金として交付しているが、運行事業者に対し、全額赤字補填はできていない。経費削減のためにルートの再編を行い、本年度の補助金は、令和元年度の実績をもとに試算し、8,800万円とした。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響と新たな人件費の計上により、経費が試算を超える額であるため、本年度も赤字が発生する。改善策として利用の促進を図る必要がある。
- 具体的にはどのような対応を考えているか。
- 市報、HP等での周知、若い世代への出前講座によるモビリティマネジメントの実施を考えている。本市のまちづくり基本方針の中では、モノレール延伸に合わせて、歩いて暮らせるまちを作っていこうと考えている。そのためには、駅までの公共交通機関の充実が課題である。早い段階から、バスや公共交通機関に乗ってもらう策を講じていく必要がある。
- ◎ 他の自治体を見ても、利用状況が新型コロナウイルス感染症の影響前までは戻っておらず、運転手の労働時間の管理等が厳しくなっていく中で運行本数の維持ができるのかという問題が出てきている。

MMシャトルの実績を見ると、定時定路線で運行していける利用者数がある。今後の利用率を上げていくため、少なくともあと1年くらいは利用の推移を見ていき、状況分析を行った上で対応を考えていく必要がある。

報告事項2 乗合タクシー（むらタク）の利用実績について

【事務局説明】

- 資料2に基づき説明<説明省略>

【主な意見、質疑等】

- 4ページ3行目の登録者数について、新たに約780人が新規登録をしているとあるが、全員利用しているのか。
- 登録をして、利用していない人が大半である。高齢者が免許返納後の利用を考えて、事前に登録を行っている。
- 5ページ目の乗降場所別利用者数で、利用者数が増加しているのは、リピーターが多いのか。
- その傾向がある。一度利用すると便利さが分かり、その後も利用する傾向がある。
- 実際に利用してみたが、思っているより使いやすく、今後車を手放した際には利用をしようと思った。いざという時のため、事前に登録している人が多いことから、このような結果になったと理解した。
- ◎ 5ページの乗降場所別利用者数をみると、利用者数が大幅に増加している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けていたが、少しずつ交通利用が増えていることと、登録可能地域拡大の影響により、利用者数は増加傾向にあると推測できる。既存地域と新規地域それぞれの利用者数の推移を把握することが、今後、地域拡大を検討する際の材料となるため、重要である。
- 令和4年10月の利用実績では、既存地域での利用者数が370人に対し、新規地域での利用者数は595人であり、新たに拡

大した地域の利用が多い傾向がある。

- 利用者数増加の要因は、むらタクのエリア拡大によるものではなく、MMシャトルのルート廃止による影響ではないか。
- ◎ MMシャトルが一部廃止となり、移動する手段が無くなった人が、むらタクを利用しているということになる。公共交通機関で利用者を転換出来ていることが非常に重要である。
- 長期的に利用者数の動向を注視し、対応していただきたい。
- ◎ ルート廃止をしたことによりMMシャトルとむらタクの運行経費の差額がどれだけ生じているのか、また市民1人当たりの補助経費がどの程度緩和されたのかということの効果・検証が必要になる。

MMシャトルの利用を、むらタクに転換した結果、ある一定の効果があったという見せ方もあるので検討していただきたい。

報告事項3 乗合タクシー（むらタク）登録者アンケート結果について

【事務局説明】

- 資料3に基づき説明<説明省略>

【主な意見、質疑等】

- アンケート結果を受けて、利用促進を図りたいターゲットや今後の対応についての考えを伺う。
- むらタクは、日中の移動手段確保を主な目的としているため、高齢者や車を持たない人、市内の移動が不自由な人をターゲットにするべきと考えている。アンケートの結果をみても、高齢者の利用が多くみられる。その中で、本年度、小さな子どもがいる家庭の利用促進に力を入れている。
- 小さな子どもや女性に対して、出前講座等による周知を進めてほしい。
- 子ども家庭支援センターが行う出張ひろばへの訪問の他に、子ども家庭支援センターに遊びに来る親子に対し、むらタクの説明をしてその場で申請できるような体制を作っている。
- ◎ 東久留米市では、妊婦、0～3歳児、70歳以上の人が利用できるデマンド型タクシーを市内全域で運行している。
利用方法を見ると、登録者に対する利用者の割合は、健診等が定期的にあるためか、妊婦、0～3歳児のいる家庭のほうが70歳以上よりも高い傾向がある。利用時間帯についても、妊婦は、早朝から1日を通して、0～3歳児がいる家庭では、昼から午後3時にかけての利用が多くみられる。こういった層が利用しやすい仕組みづくりが必要である。
- 電話予約では通話料の負担がかかる。新規利用者の確保のためにもネット予約等を検討してほしい。
- ◎ 利用者の層を広げ、利用促進を図るためにも必要になる。
- 1日当たりの利用者数の目標はあるか。
- 年間4,000人程度を目標とし、現在達成しているが、新規地域拡大前に設定した数値のため、見直しが必要である。
- ◎ 目標数値は、利用対象地域、利用者数、車両台数、交通状況等を考慮し、設定する必要がある。参考として、千葉県柏市では「カシワニクル」という相乗りタクシーを運行しており、1台の車両で1日当たり30人を1つの目標としている。

- 待ち時間について、利用者からの意見はあるか。
- 新規地域拡大後の利用者数の増加の影響で、待ち時間が増加したという意見は少数であるが挙がっている。

報告事項4 乗合タクシーの令和4年度利用促進策について

【事務局説明】

- 資料4に基づき説明<説明省略>

【主な意見、質疑等】

- ◎ 今後も利用促進を継続していただきたい。

報告事項5 バス路線再編に関する基本方針策定について

【事務局説明】

- 資料5に基づき説明<説明省略>

【主な意見、質疑等】

- 今後、検証等を進めていく中で、対象地域の現状や課題等の調査について、民間バス事業者等の意見をできる限り取り入れていただくよう要望する。
- バス路線の編成について、今後もこの会議で検討を行うのか。
- 令和5年度から、バス路線再編に関する基本方針の内容について協議をお願いする予定である。
- 路線バスのルートの廃止等についても制御されるのか。
- あくまでも、基本方針であり、路線バスのルートの再編について最終決定するのは事業者である。ルート廃止の強制力はない。モノレール延伸に伴い、MMシャトルのルートの再編を行う際に、路線バスのルートが決まらなると、再編等ができない。早い段階から地域公共交通について検討をはじめ、市の見解として、バス路線再編の基本方針を策定する。今後、バス事業者と検討、協議を行っていく中で、一つの指針になればと考える。
- モノレール延伸に伴い、駅前広場を整備する計画があるが、交通インフラ等も協議の対象になるか。
- 現時点で、(仮称)NO.1駅と(仮称)NO.3駅の南側に駅前広場を整備する計画があるが、その他の駅については未定である。沿線のまちづくり方針を市民と一緒に考え、検討を進めていく。
- ◎ 基本方針を策定することは、大変意味があることだと感じている。どの自治体もコミュニティバスをどのように維持継続するかが課題となっている。
バスの再編について、民間路線バスのルート等は民間事業者が設定することになるが、自治体が交通不便地域に行くコミュニティバスを設定し、共に協議を行っていく上では、自治体の方向性が決まっていないと協議がうまく進まない。そういった意味では基本方針を策定することは大事になってくる。
武蔵村山市では、モノレール延伸に伴うまちづくりと連動して民間、コミュニティバスを含めた交通不便地域対策を議論していく再編計画を作り上げていくことになる。その方向性としての基本方針の枠組を事務局として考えていただきたい。

議題1 乗合タクシーの同乗者利用の本格運行について

	<p>【事務局説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資料6に基づき説明<説明省略> <p>【主な意見、質疑等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 新型コロナウイルス感染症拡大下では利用が伸び悩んでいたが、本年度より利用が増加している。 挙手により採決を行う。 (賛成：13名、反対：0名) 全員一致で可決。 ● 今後のスケジュールのとおり、制度改正に向けた手続きを行っていく。 ◎ 同乗者の利用者層や動向を注視し、今後の情報発信を図る際の参考にしていただきたい。 ● 出張受付の際には、友人と利用したいという声が多くあった。また、利用対象区域外の友人と一緒に利用できるかという問い合わせもあった。そういった方々の利用で、同乗者の利用が伸びていると考える。 <p>議題2 その他</p> <p>【主な意見、質疑等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次回の地域公共交通会議の開催については、9月頃の実施を考えている。開催日時は追って連絡する。
--	---

<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>公開 <input type="checkbox"/>一部公開 <input type="checkbox"/>非公開 ※一部公開又は非公開とした理由</p> <p style="text-align: right;">傍聴者： 3名</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 10px;"></div>
--------------------	---

<p>会議録の開示・非開示の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>開示 <input type="checkbox"/>一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/>非開示(根拠法令等：)</p>
---------------------	---

<p>庶務担当課</p>	<p>都市整備部 交通企画・モノレール推進課 (内線：273)</p>
--------------	-------------------------------------